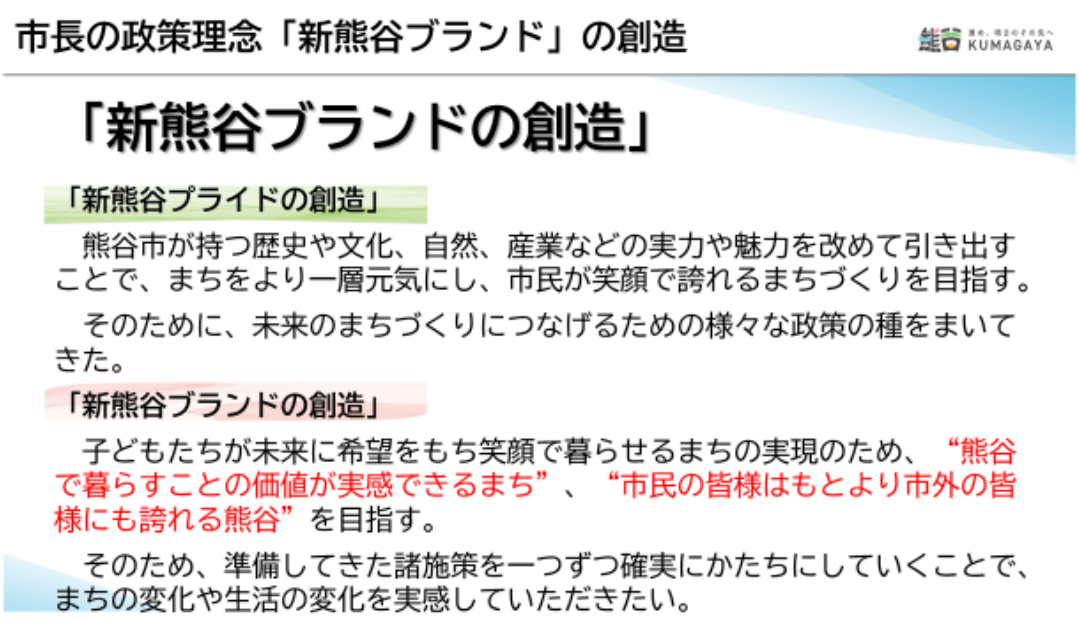
第２８回（令和７年度第３回）タウンミーティングの概要

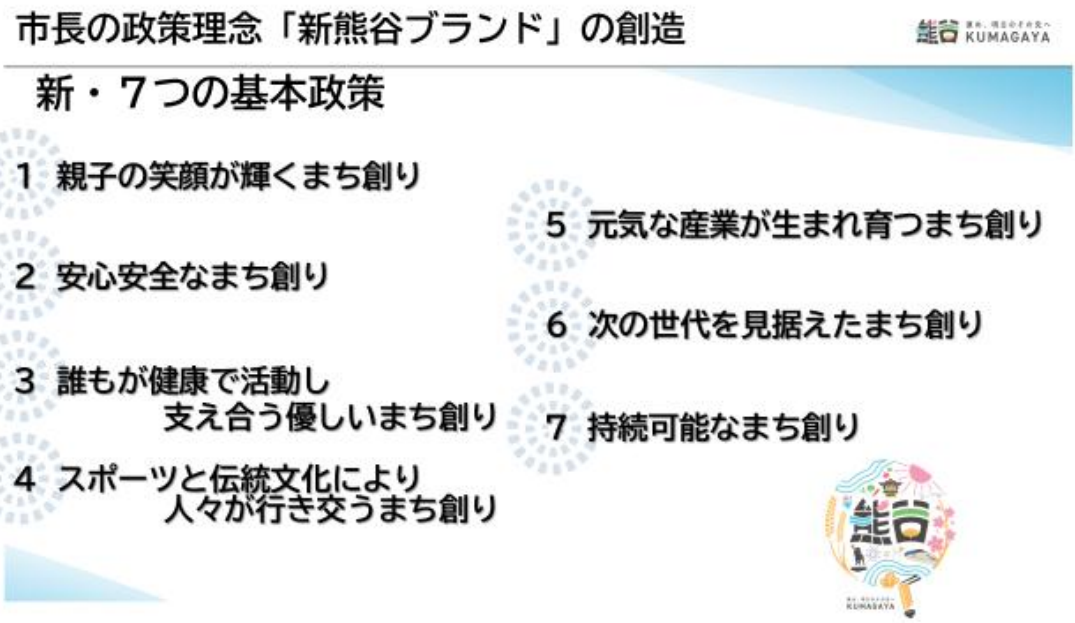
１　団体名　銀座自治会連合会
　　代表者　会長　出井　哲司

２　日程等
（１）開催日　令和８年２月２１日（土）午前１０時００分開会
　　（午前１１時１０分閉会）
（２）会　場　銀座自治会館
（３）テーマ　市長の基本政策・新年度予算について

３　市長説明の概要
〇「新熊谷ブランド」の創造



〇新・７つの基本政策

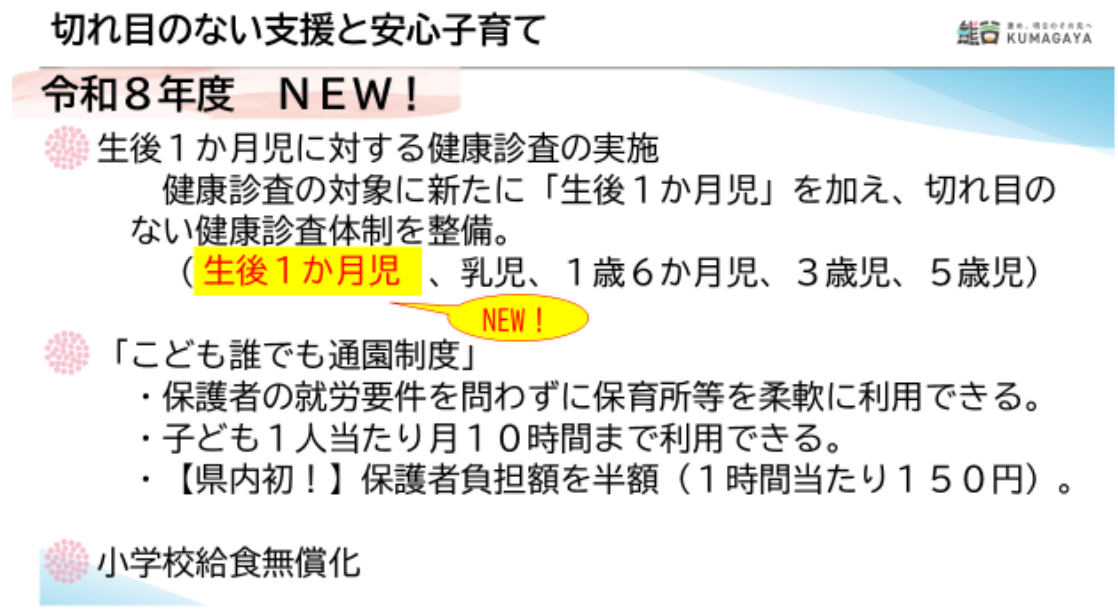


①親子の笑顔が輝くまち創り

昨年の４月から、０歳から２歳の保育料の無償化を市の政策によって開始しました。これにより小学校に上がるまでの保育園・幼稚園は、保育料完全無償化を達成することができました。

今年の４月から市立小学校は、給食費が国の制度で完全無償化になります。中学校の給食は、残念ながら無償化になりませんが、食材費や人件費が上がった増加分に対しては、ご家庭の負担を軽減するため、据え置いて、市で負担をしています。

令和８年度から生後 1 か月児に対する健康診査を新たに実施し、切れ目のない健康診査体制を整備します。また、「こども誰でも通園制度」の利用が 1 回 300 円のところ、半分は市が持ち、1 回 150 円とする埼玉県初の制度を行っていきます。



〇子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」

石原小学校の隣に今年の４月にオープンします。

休日・夜間急患診療所、４つの保育所が集約された中央保育所、保健センター、こども館、石原児童クラブの４棟５施設で構成しています。子どもを遊ばせることはもちろん、その上で子育てのお悩みがあればワンストップで相談をしていただける環境を作っています。



〇小・中学校体育館空調設備設置

　最高気温が昨年全国１位から６位となりましたが、日本一になったのはすぐ隣の伊勢崎市ですから、状況は変わっていません。暑い日になると、対策が必要です。そこで今回は令和８年度に、石原小・久下小・奈良小・妻沼小・江南北小・中条中・別府中・大里中の体育館に空調設備を入れます。４年間で全ての小・中学校に入れます。これはもちろん、スポーツ・運動環境の改善が一つですが、もう一つは避難所です。災害が起きたときに安心して避難できる場所を作るということも併せて、この取組をしているということをご理解いただきたいと思います。

〇新熊谷学校給食センター

　熊谷学校給食センターやその他の給食施設の老朽化が進んだことから、ＨＡＣＣＰ（ハサップ）という衛生管理手法やアレルギーへの対応ができる施設の整備を進めています。



②安心・安全なまち創り

〇治水対策

　ラグビーロードのところで新星川改修を進めています。現在、道路通行で迷惑をかけているが、河川を改修することで内水氾濫への対策を進め、新星川沿線に住んでいらっしゃる方の安心安全のため、着々と進めています。

〇不妊治療

　不妊治療について、今までも補助金はありましたが、令和８年度は交通費の支給をさせていただきます。令和８年から国の方でも、制度が始まるので、不妊治療での交通費は、負担軽減ができるかなと思っています。

〇任意接種費用助成事業

　ＨＰＶに起因する子宮頸がんの撲滅のためにもう一つ必要だったのが、男子へのワクチン接種です。男性もこれに感染すると、パートナーの女性へも感染させてしまうということで、男性にも接種することで子宮頸がんを撲滅できるだろうということから、熊谷市としては令和５年から、全国に先駆けて県内初でスタートをさせてもらっています。今着々と埼玉県内他の自治体も、私ども熊谷市に続いて、このワクチン接種も動いてくれています。

③誰もが健康で活動し支え合う優しいまち創り

〇乗合型オンデマンド交通

　免許返納した方や障害をお持ちの方にも、より自由に行動していただくことを目的として、妻沼地区で令和８年１月５日から運行開始しました。

　地域内の病院やスーパーには行けますが、熊谷駅や八木橋などの市街地に、直接行けるタクシーではなく、バスなどの既存の公共交通機関と連携をして利用していただくことで、公共交通の良さと、地域の足としての良さをしっかり合わせて、そして自由に動ける地域作りがスタートしています。

〇（仮称）第２中央生涯活動センター

　勤労会館の跡地に整備しており、基礎工事が始まっています。令和９年１０月オープンを予定しています。少しずつ老朽化した施設が新しくなってきていることもご理解をいただきたいと思います。



④スポーツと伝統文化により人々が行き交うまち創り

〇プロスポーツチームと連携したまちづくり

　埼玉ワイルドナイツ、ちふれＡＳエルフェン埼玉、アルカス熊谷、埼玉武蔵ヒートベアーズがあり、スポーツのチームの力を借りながら、熊谷の元気につなげる取組を進めています。

　スポーツチームのほか、熊谷市ではグライダーが有名なスポーツです。滑空回数は日本一であり、聖地ともなっているので、こういった熊谷市を元気にする取組を進めていきたいと思います。

〇マンガ形式のブックレット

　これまで「熊谷直実・蓮生法師」「斎藤実盛と妻沼聖天山」を題材にマンガ形式のブックレットを作成し、市内の小・中学生に配布してきました。令和７年度は「根岸友山・武香」、令和８年度は、「荻野吟子」を予定しています。



〇荻野吟子

　荻野吟子にゆかりのある北海道のせたな町、今金町と一緒に荻野吟子を顕彰することに合意をしたほか、お墓のある豊島区、初めて診療所を開設した文京区、北海道から戻ったのちに診療所を開設した墨田区の区長を訪問し、連携を深めています。

　令和８年度は、荻野吟子の演劇やシンポジウムの開催を予定しており、そのような形で熊谷市の中だけではなく、外に発信をして、もう一つの顔として売り込んでいきたいと思っています。



⑤元気な産業が生まれ育つまち創り

〇企業誘致

企業誘致セミナー（東京）

首都直下地震や南海トラフ地震の影響を踏まえて、第二のオフィスを構えられるところはないかという話があり、熊谷であれば、津波はないし、もちろん地震がないわけではないけれども、そんなにひどい状況にはならないだろうということで、都内よりは安心安全でまた新幹線が通っており、東京と熊谷を片道 37 分で往復でき、交通アクセスも優れていることから、都内で企業誘致セミナーを行いました。企業に熊谷の優位性をＰＲしていきたいと考えています。

企業情報交換会（大泉町）

現在、産業団地の整備を進めており、そこへ企業に立地いただき、市民の皆さんの安定した雇用の確保につなげていくため、ビジネスマッチングの場も活用しながら、企業誘致に取り組んでいます。

〇産業拠点の整備

現在、県企業局との共同事業として、吉岡工業団地の隣接地に約１８ヘクタールの広さの新たな産業団地整備を進めています。

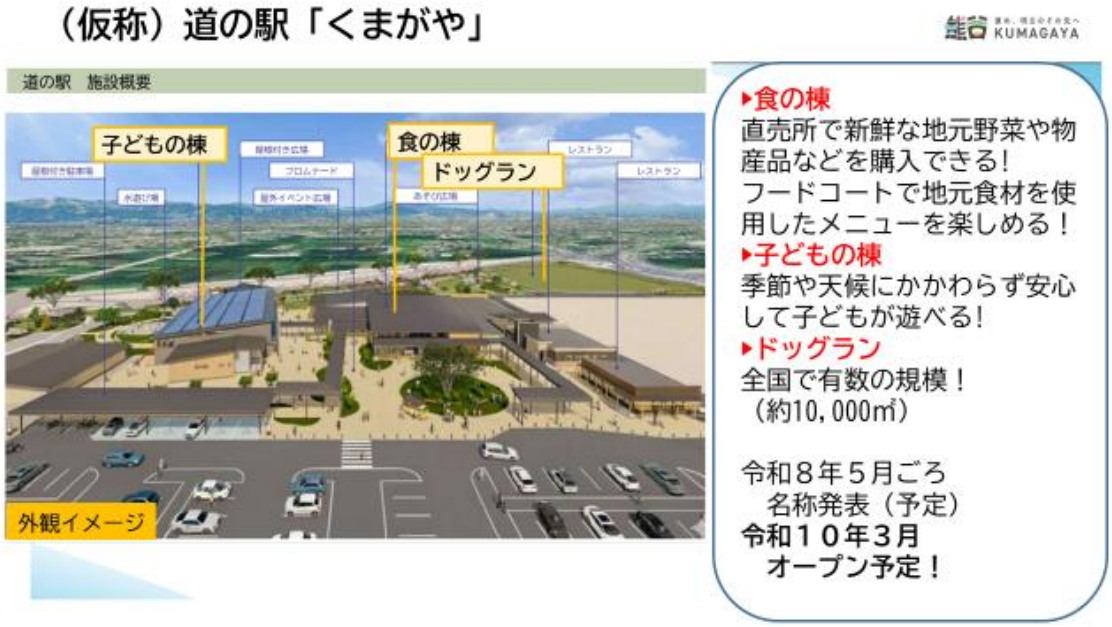
ソシオ流通センターの周辺には、駅もでき、ソシオスクエアもできました。この産業拠点の整備を進めるとともに、道の駅とも連携させ、産業誘致、元気な産業を作るエリアにしていきたいと考えています。

〇（仮称）道の駅「くまがや」

令和１０年３月にオープン予定で、基礎工事も始まっています。

熊谷市は観光で訪れるだけではなく、市民に愛される道の駅を目指して、子どもの棟には、屋根付きの遊び場を作ります。夏の暑い日や冬の寒い日、雨が降った日などに子どもと一緒に楽しんでいただける場所として考えています。

今回の売りとして、調整池にドッグランを作ります。広さは約１万平方メートル（約３，０００坪）になり、そういった特色を持った道の駅ができるので、楽しみにしていただきたいと思っています。



⑥次の世代を見据えたまち創り

〇新市庁舎・北部地域振興交流拠点

県と調整をしながら、市役所移転、県は北部地域振興交流拠点の整備ということで動き出しています。

場所は、この市役所通りと国道１７号との交差点のコミュニティひろばという計画です。

熊谷市と県で、１１階建ての一つの建物を建てて、市役所部分の他に、循環器・呼吸器病センターの隣にある高等看護学院、それから埼玉県立病院のサテライトも入るほか、コンベンションホールと県立図書館が入り、それから話ができたりする場所をつくる計画です。

市役所は２階から８階、１１階に建設予定です。

〇星川周辺の取組

　去年の秋に、星川を歩いた先の星溪園で「星溪園ガーデンカフェ」という取組を行いました。普段はお茶席としての利用がほとんどだった松風庵にカフェを設置しました。来年度も、社会実験という形での実施に向けて、今、計画を練っているところです。

　併せて、星川緑の広場から星溪園までを周回するグリーンスローモビリティというものを走行させました。休日など利用者が多い日は満員で、乗れない方もいました。ただ、乗った場所から一周して元の位置で降りる方が多かったので、今後同様の取組が実施された際は、乗り物ではなく、移動の手段として、使っていただければと思っています。



〇熊谷市荒川かわまちづくり

　昨年の８月１日に、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録され、５年間をかけて、荒川の河川敷の再整備が始まります。

　スポーツや散歩を楽しめるほか、水に親しんでいただく環境をつくり、あわせて、スポーツを観戦したり、花火を見たりできるような階段状のコンクリート護岸の整備を国土交通省にお願いしているところです。



〇「高速道路を熊谷へ」首都高速道路に接続する高規格道路の延伸

　熊谷に首都高速道路ということで、県、国との関係も４年間、関係を深めてきました。去年１２月に片山さつき財務大臣を行田市長と訪問し、要望するなどの動きを見せています。

〇利根川新橋

　利根川新橋は、群馬や栃木の足利にも関係があり、熊谷だけの問題ではありません。足利の人たちが東京に行くときに、東武鉄道もありますが、東京に早く行って仕事をしてまた帰ってくることを考えると、熊谷か小山に出て新幹線を使うのが一番だそうです。今はどちらも約１時間かかるのが、利根川新橋ができて道路が整備をされると約３０分から４０分で熊谷に行けるようになります。そうすると、あのエリアがほぼ熊谷を頼りにしていきます。

　熊谷はそもそも交通の要衝で栄えた町ですので、その強みを出していく取組を進めています。



〇スマートシティ

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、熊谷市は 3,000 円に、あと 2,000 円足して、１人 5,000 円分のクマ PAY を配布します。

カードで使えるところが少なかったが、利用可能な店舗が拡大したので、安心してお使いいただきたいと思います。

⑦持続可能なまち創り

〇公共施設マネジメント

市が持っている施設がほぼ 50 年から 60 年経過し、老朽化が進んでいます。

下水道や焼却炉も市として必要なものなので、しっかりと取り組んでいきます。

別府地区には、同じ敷地で衛生センターの整備の話が進んでいます。焼却炉で生じた余熱を使った温水のプールを新たにオープンしたいと考えています。

持続可能な自治体として必要なものをしっかりと取り組んでいくということをご理解いただきたいと思います。

質疑応答・意見交換

市民）

多くの事業が着々と進む中で熊谷市の財政は大丈夫なのか知りたい。

市長）

令和８年度の熊谷市の当初予算は 803 億円です。また、令和８年度の市債発行額、いわゆる市の借金は約 22．8 億円で、年度末の市債残高、いわゆる市の借

金の残高は 337 億円です。
　今のところは、熊谷市には約 800 億円の収入があります。仮に、「億」を取って「万」に置き換えてみたとき、約 800 万円の収入のご家庭が、約 300 万円の借金しかしていないということを考えたときに財政的に厳しい状況でしょうか。
　また、この市債については、７割が地方交付税で措置される「合併特例債」という有利なものを選択するなど、多様な手段を適時適切に採用しながら、財源の確保に努めてきました。

※「地方交付税」: 地方公共団体が、合理的かつ妥当な水準の行政を行うのに必要な財源を保障するもの。国税の一定割合が財源として交付される。

　前市長がしっかりとした健全経営をしてくださったので、埼玉県でも 1、2 を争う健全経営の自治体であり、これがあったので、先ほどから申し上げている新しい取組ができています。

※「将来負担比率」: 将来負担すべき借金等が財政規模に占める割合。低いほど良い。 埼玉県内第１位［最も低い］

※「実質公債比率」: 借金の返済額が財政規模に占める割合。低いほど良い。 埼玉県内第２位［２番目に低い］

　ちなみに埼玉県の財政状況を熊谷市と比べるとどうかっていうのを見ていただくと、埼玉県の令和８年度の当初予算が約２兆 4,000 億円に対して、借金は約 3 兆 5,000 億円です。
　熊谷市は、約 800 億円の収入に約 300 億円の借金、埼玉県は約 2 兆 4,000 億円に対して約 3 兆 5,000 億円の借金なので、埼玉県の財政状況を熊谷市と比べると県債残高は、当初予算よりも多いということになります。当初予算の範囲内で収まっているかという点で考えても、熊谷市の状況、財政状況は決して悪くないということをご理解いただきたいと思います。

市民）
　利根川新橋ができることで足利や太田の人たちが熊谷駅を利用することが増えるかと思うが、熊谷駅だけが使われるのではなくて、駅以外にも魅力を持って来てもらいたいので、何かそういった施設を考えているのか。
市長）
　単に橋と駅が利用されるだけになってしまう事態は、私としても本意ではありません。
　まずは、熊谷に人々が集まってくる環境を整えることが、新しいまちづくりが動き出すものと思っています。橋ができてからではなく、まちなかの準備も含めてしっかりと取り組んでいきたいと思っています。
　その中の一例として、新しい橋から県道をまっすぐ進むと道の駅へと繋がり

ます。そこから多くの方々に市内中心部へと足を運んでもらえるような流れをつくりたいと考えています。そうなれば、沿線の風景や賑わいも変わってくるでしょう。そのようなところも楽しみにしていただきたいと思います。